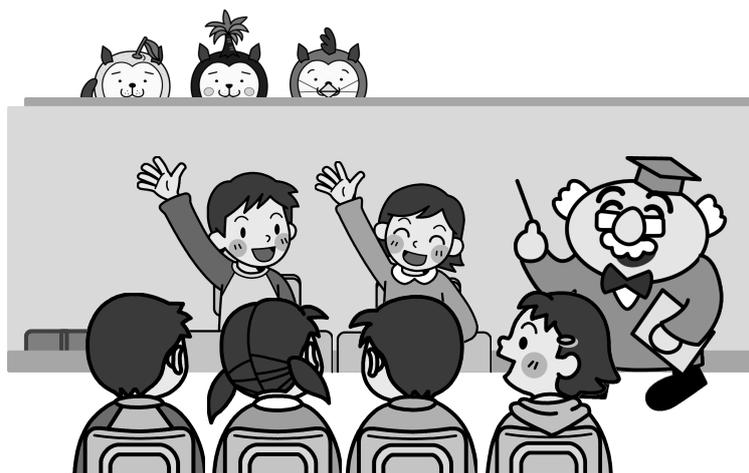


# 平成28年度 全国学力・学習状況調査 【 宮崎県の調査結果 】



## ――目次――

|   |                 |       |      |
|---|-----------------|-------|------|
| 1 | 結果の概要           | ..... | p 1  |
| 2 | 小学校国語の結果概要      | ..... | p 3  |
| 3 | 小学校算数の結果概要      | ..... | p 4  |
| 4 | 中学校国語の結果概要      | ..... | p 5  |
| 5 | 中学校数学の結果概要      | ..... | p 6  |
| 6 | 小学校の具体的な問題例     |       |      |
|   | 小学校国語           | ..... | p 7  |
|   | 小学校算数           | ..... | p 10 |
| 7 | 中学校の具体的な問題例     |       |      |
|   | 中学校国語           | ..... | p 12 |
|   | 中学校数学           | ..... | p 14 |
| 8 | 児童生徒の生活習慣に関する概要 | ..... | p 17 |

宮崎県教育庁学校政策課  
義務教育・学力向上担当

## 宮崎県の調査結果

【1 結果の概要】

学校政策課

## ◆ 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。  
 (3) 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ◆ 調査の概要

- 1 調査実施日 平成28年4月19日(火)  
 2 対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年  
 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年  
 3 調査対象 小学校：230校(市町村立小学校227校、特別支援学校小学部3校)  
 中学校：137校(市町村立中学校131校、県立学校3校、特別支援学校中学部3校)

※ 国立・私立学校も参加しているが、示しているのは、県内の公立小・中学校、特別支援学校の結果のみである。

※ 上記調査対象校のうち、熊本地震の影響により、調査問題が配送されなかった北部教育事務所管内の6中学校と、五ヶ瀬中等教育学校(前期課程)については、本集計には反映されていない。

## ◆ 宮崎県の公立小・中学校の学力調査結果の概要

## 1 平均正答数

## ○ 小学校第6学年

| 年度  | 教科<br>〔問題数〕 | 国語A<br>〔15問〕 | 国語B<br>〔10問〕 | 算数A<br>〔16問〕 | 算数B<br>〔13問〕 | 合計<br>〔54問〕 |
|-----|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| H28 | 宮崎          | 11.2         | 5.6          | 12.3         | 5.9          | 35.0        |
|     | 全国          | 10.9         | 5.8          | 12.4         | 6.1          | 35.2        |
|     | 全国との差       | +0.3         | -0.2         | -0.1         | -0.2         | -0.2        |

## ○ 中学校第3学年

| 年度  | 教科<br>〔問題数〕 | 国語A<br>〔33問〕 | 国語B<br>〔9問〕 | 数学A<br>〔36問〕 | 数学B<br>〔15問〕 | 合計<br>〔93問〕 |
|-----|-------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-------------|
| H28 | 宮崎          | 24.6         | 5.8         | 22.2         | 6.4          | 59.0        |
|     | 全国          | 25.0         | 6.0         | 22.4         | 6.6          | 60.0        |
|     | 全国との差       | -0.4         | -0.2        | -0.2         | -0.2         | -1.0        |

- A問題：主として「知識」に関する問題  
 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- B問題：主として「活用」に関する問題  
 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容など

## 2 平均正答率

### ○ 小学校第6学年

| 年度    | 教科    | 国語 A | 国語 B | 算数 A | 算数 B | 合計    | 合計<br>100%換算 |
|-------|-------|------|------|------|------|-------|--------------|
| H 2 8 | 宮 崎   | 75.0 | 55.8 | 76.8 | 45.5 | 253.1 | 63.3         |
|       | 全 国   | 72.9 | 57.8 | 77.6 | 47.2 | 255.5 | 63.9         |
|       | 全国との差 | +2.1 | -2.0 | -0.8 | -1.7 | -2.4  | -0.6         |

### ○ 中学校第3学年

| 年度    | 教科    | 国語 A | 国語 B | 数学 A | 数学 B | 合計    | 合計<br>100%換算 |
|-------|-------|------|------|------|------|-------|--------------|
| H 2 8 | 宮 崎   | 74.5 | 64.5 | 61.7 | 42.5 | 243.2 | 60.8         |
|       | 全 国   | 75.6 | 66.5 | 62.2 | 44.1 | 248.4 | 62.1         |
|       | 全国との差 | -1.1 | -2.0 | -0.5 | -1.6 | -5.2  | -1.3         |

### ◆ 宮崎県の結果の概要

本県の学力の状況を「2 平均正答率」の表で見ると、小学校は4教科区分の合計で2.4点（平均では0.6点）、中学校は4教科区分の合計で5.2点（平均では1.3点）、全国平均を下回っている。  
教科区分別では、小学校国語の知識に関するA問題は、全国平均を2.1点上回ったが、小・中学校のその他の教科区分では、全国平均をやや下回っている。

※ 過年度の調査結果については、「宮崎県教育研修センター」のトップページにある、「調査・研究」の「全国学力・学習状況調査」を参照ください。

※ 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であります。  
「平成28年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より

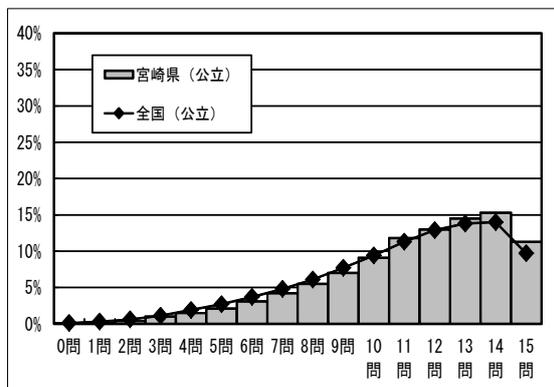
# 宮崎県の調査結果

【2 小学校国語の結果概要】

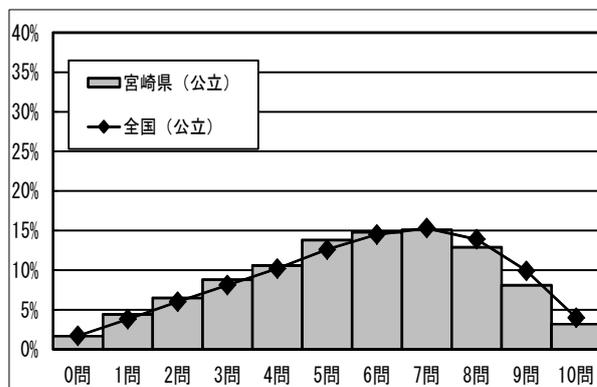
学校政策課

## ◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

小学校国語A（15問）



小学校国語B（10問）



※棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

## ◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、( )の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

| 領域   | 国語A                | 国語B                |
|------|--------------------|--------------------|
| 話すこと | <b>78.4</b> (79.2) | <b>49.6</b> (51.1) |
| 聞くこと | -0.8               | -1.5               |
| 書くこと | <b>71.1</b> (72.8) | <b>52.2</b> (53.4) |
|      | -1.7               | -1.2               |
| 読むこと | <b>79.1</b> (78.5) | <b>66.8</b> (69.3) |
|      | +0.6               | -2.5               |
| 言語事項 | <b>74.6</b> (71.1) |                    |
|      | +3.5               |                    |

| 問題形式 | 国語A                | 国語B                |
|------|--------------------|--------------------|
| 選択式  | <b>76.7</b> (77.2) | <b>56.7</b> (59.9) |
|      | -0.5               | -3.2               |
| 短答式  | <b>73.9</b> (70.0) |                    |
|      | +3.9               |                    |
| 記述式  |                    | <b>54.5</b> (54.7) |
|      |                    | -0.2               |

## ◆ 小学校国語の設問別結果概要（全国平均との比較）

### 【話すこと・聞くこと】

● (B-1) インタビューメモを作成した際の工夫点について当てはまらないものを選択する問題

○ (B-1) メモを基にして、話の展開に沿った質問を書く。(【書くこと】も含む)

### 【書くこと】

○ (A-4) パンフレットを作るため、追加の取材の理由として適切なものを選択する問題

● (B-2) 活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する問題

### 【読むこと】

○ (A-6) 登場人物の人物像を説明するための根拠となる表現として適切なものを選択する問題

● (B-3) 本を選んだ目的の説明として適切なものを選ぶ問題

● (B-3) 複数の資料の内容を関連づけてまとめる問題

### 【言語事項】

○ (A-1) 漢字を正しく読む・書く問題

○ (A)(B) 無解答率が3問を除き全国平均より低い。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

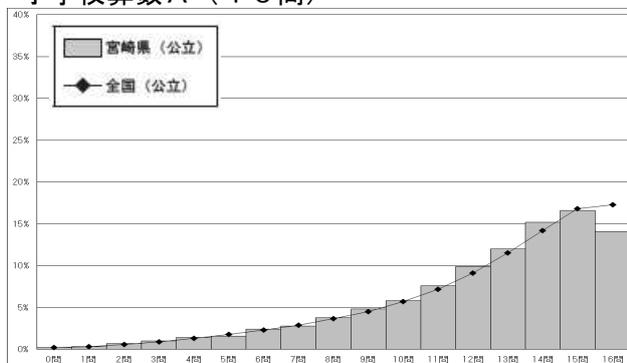
# 宮崎県の調査結果

【3 小学校算数の結果概要】

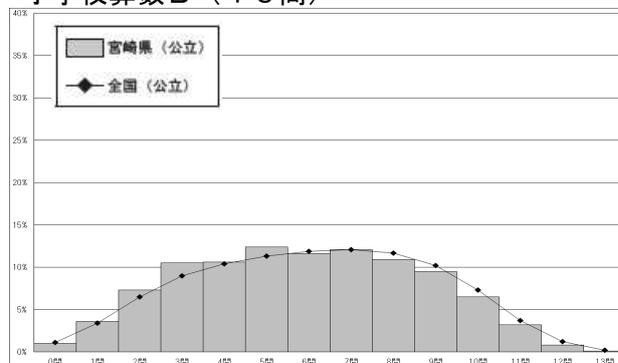
学校政策課

## ◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

小学校算数A（16問）



小学校算数B（13問）



※棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

## ◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

※ 太字が宮崎県の平均正答率、( )の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

| 領域   | 算数A                        | 算数B                        |
|------|----------------------------|----------------------------|
| 数と計算 | <b>80.8</b> (80.5)<br>0.3  | <b>42.1</b> (44.4)<br>-2.3 |
| 量と測定 | <b>75.2</b> (77.0)<br>-1.8 | <b>42.9</b> (43.7)<br>-0.8 |
| 図形   | <b>80.0</b> (78.8)<br>1.2  | <b>34.7</b> (36.3)<br>-1.6 |
| 数量関係 | <b>63.4</b> (68.5)<br>-5.1 | <b>40.5</b> (42.9)<br>-2.4 |

| 問題形式 | 算数A                        | 算数B                        |
|------|----------------------------|----------------------------|
| 選択式  | <b>74.5</b> (75.8)<br>-1.3 | <b>54.4</b> (56.7)<br>-2.3 |
| 短答式  | <b>77.8</b> (78.5)<br>-0.7 | <b>63.4</b> (66.4)<br>-3.0 |
| 記述式  |                            | <b>25.8</b> (26.2)<br>-0.4 |

## ◆ 小学校算数の設問別結果概要（全国平均との比較）

### 【数と計算】

- (A-2(3)) 小数の除法 ( $18 \div 0.9$ ) の計算をすることができるかどうかをみる問題
- (A-3(2)) 数の大小関係を理解しているかどうかをみる問題
- (B-2(2)) 示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めるかどうかをみる問題

### 【量と測定】

- (A-5) 三角形の底辺と高さの関係について理解しているかどうかをみる問題

### 【図形】

- (A-7) 直方体における面と面の位置関係を理解しているかどうかをみる問題
- (B-5(1)) 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することができるかどうかをみる問題

### 【数量関係】

- (A-8) 全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解しているかどうかをみる問題
- (A-9(2)) 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる問題

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

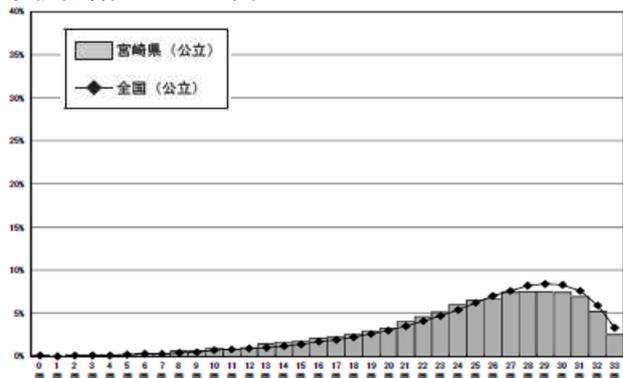
# 宮崎県の調査結果

【4 中学校国語の結果概要】

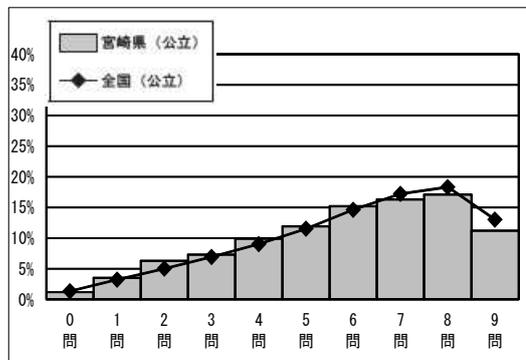
学校政策課

## ◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校国語A（33問）



中学校国語B（9問）



※ 棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

## ◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

※ 太字が宮崎県の平均正答率、( )の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

| 領域           | 国語A                        | 国語B                        |
|--------------|----------------------------|----------------------------|
| 話すこと<br>聞くこと | <b>76.9</b> (78.9)<br>-2.0 |                            |
| 書くこと         | <b>71.4</b> (73.7)<br>-2.3 | <b>57.9</b> (58.3)<br>-0.4 |
| 読むこと         | <b>75.8</b> (78.6)<br>-2.8 | <b>64.5</b> (66.5)<br>-2.0 |
| 言語事項         | <b>73.8</b> (73.9)<br>-0.1 |                            |

| 問題形式 | 国語A                        | 国語B                        |
|------|----------------------------|----------------------------|
| 選択式  | <b>71.5</b> (73.5)<br>-2.0 | <b>67.7</b> (70.6)<br>-2.9 |
| 短答式  | <b>81.4</b> (80.5)<br>0.9  | <b>68.4</b> (71.1)<br>-2.7 |
| 記述式  |                            | <b>57.9</b> (58.3)<br>-0.4 |

## ◆ 中学校国語の設問別結果概要（全国平均との比較）

### 【話すこと・聞くこと】

- (A-1) 聞き手の立場をどのように想定して話すべきかを説明したものとして適切なものを選択する問題

### 【書くこと】

- (A-2) 他の見出しの書き方を参考にして見出しを書く問題
- (A-4) 答えの文章を直した意図として適切なものを選ぶ問題

### 【読むこと】

- (A-6) 文章の構成や展開について説明したものについて適切なものを選ぶ問題
- (A-8) 資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する問題
- (B-3) 物語の展開に沿って登場人物の様子を並べ替える問題

### 【言語事項】

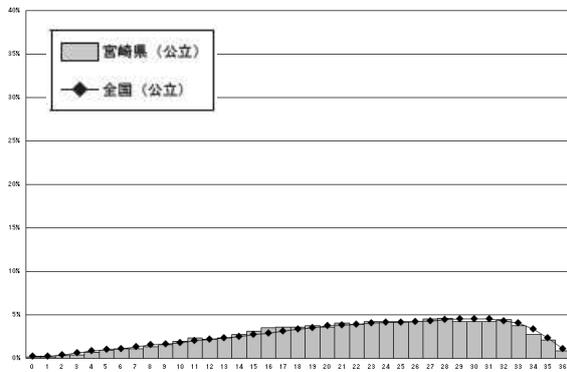
- (A-9) 文脈に即して漢字を正しく読む問題
- (A-9) 歴史的仮名遣いや歌に表れた作者の思いを想像する問題
- (A-9) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題（縫って 立つ）
- (A-9) 題名の下書きをどのように書き直したかを説明したものとして適切なものを選択する問題

○ (A) (B) 無解答率は全問題を通じて全国平均と同じか低い。

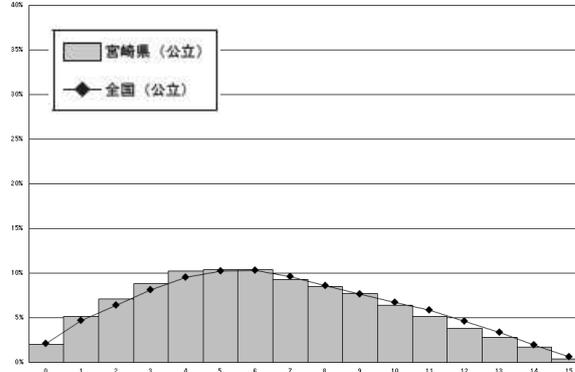
※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校数学A（36問）



中学校数学B（15問）



※ 棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

※ 太字が宮崎県の平均正答率、（ ）の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

| 領域    | 数学A                        | 数学B                        |
|-------|----------------------------|----------------------------|
| 数と式   | <b>66.3</b> (65.9)<br>+0.4 | <b>49.9</b> (51.5)<br>-1.6 |
| 図形    | <b>66.4</b> (67.1)<br>-0.7 | <b>29.8</b> (33.3)<br>-3.5 |
| 関数    | <b>51.0</b> (52.0)<br>-1.0 | <b>40.0</b> (41.4)<br>-1.4 |
| 資料の活用 | <b>55.7</b> (56.5)<br>-0.8 | <b>39.2</b> (39.3)<br>-0.1 |

| 問題形式 | 数学A                        | 数学B                        |
|------|----------------------------|----------------------------|
| 選択式  | <b>56.0</b> (57.8)<br>-1.8 | <b>39.5</b> (41.3)<br>-1.8 |
| 短答式  | <b>65.0</b> (64.6)<br>+0.4 | <b>56.3</b> (57.8)<br>-1.5 |
| 記述式  |                            | <b>31.5</b> (33.1)<br>-1.6 |

◆ 中学校数学の設問別結果概要（全国平均との比較）

【数と式】

- (A-2) 数量の関係を文字式に表す問題
- (A-3) 一元一次方程式  $x + 12 = -2x$  を解く問題
- (A-2)  $-5, 0, 1, 2.5, 4$  の中から自然数を全て選ぶ問題

【図形】

- (A-4) 与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ問題
- (A-4)  $\triangle ABC$  を、直線  $l$  を軸として対称移動した図形をかく問題
- (A-8) 証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ問題
- (B-4) 2つの辺の長さ等しいことを、三角形の合同を利用して証明する。

【関数】

- (A-9) 反比例のグラフから式を求める問題
- (A-10) 一次関数の表からグラフを選ぶ問題
- (A-10) 一次関数のグラフから、 $x$  の変域に対応する  $y$  の変域を求める問題
- (B-2) 一次関数の表から  $x = 4$  のときの  $y$  の値を求める問題

【資料の活用】

- (A-12) 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める問題
- (A-13) 1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ問題

○ B-4 (1)、B-6 (2) 以外は、無解答率が全国平均より低い。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

平成28年度 全国学力・学習状況調査  
宮崎県の調査結果  
【6 小学校の具体的な問題例】

学校政策課

【小学校国語】

○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる問題については良好な結果である。

A問題 1

■正答

|   |         |
|---|---------|
| 一 | 1 かいせい  |
|   | 2 ちよきん  |
|   | 3 はぶ(く) |
| 二 | 1 種     |
|   | 2 親(しい) |
|   | 3 相談    |

1

次の一と二の問いに答えましょう。

一 1から3までの文の — 部の漢字の読みを

1 今日は全国的に快晴だ。

2 お年玉を貯金する。

3 むだを省くようにする。

二 1から3までの文の — 部のひらがなを、

1 アサガオのたねをまく。

2 したしい友人と出かける。

3 先生にそうだんする。

| 一   |    | 正答率   | 無答率   |
|-----|----|-------|-------|
| (1) | 宮崎 | 83.3% | 3.6%  |
|     | 全国 | 79.3% | 5.2%  |
| (2) | 宮崎 | 98.8% | 0.1%  |
|     | 全国 | 98.5% | 0.3%  |
| (3) | 宮崎 | 86.8% | 3.1%  |
|     | 全国 | 81.0% | 5.0%  |
| 二   |    | 正答率   | 無答率   |
| (1) | 宮崎 | 91.3% | 2.3%  |
|     | 全国 | 87.5% | 4.5%  |
| (2) | 宮崎 | 76.8% | 7.6%  |
|     | 全国 | 73.8% | 10.4% |
| (3) | 宮崎 | 68.4% | 3.0%  |
|     | 全国 | 64.2% | 5.0%  |

●誤答例  
二(3)「想」と解答している  
(17.0%)  
※H19(小学校)でも出題。  
(58.3%)

学習指導に当たって

漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する

○ 漢字の指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが重要である。習得した漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定し、漢字を字形に注意しながら繰り返し書くことにとどまらず、文や文章の中で適切に使えるような指導の工夫が必要である。

具体的には、以下のような学習活動が考えられる。

- ・ 書いた文章を互いに読み合い、漢字のもつ意味を考えながら正しく使用しているかどうかを評価し合う。
- ・ 同音異義の漢字や、本問の「親」のように複数の読み方をもつ読み替え漢字に注意しながら文を作り、それぞれの漢字の意味を確認する。

国語辞典や漢字辞典を利用する習慣を付ける

○ 漢字を正しく読んだり書いたりするとともに、語彙を広げるためには、辞書を利用する能力や態度を育て、辞書を利用して調べる習慣を付けることが大切である。そのためには、辞書の利用について学習する第3学年及び第4学年において、国語辞典や漢字辞典などの使い方 の確実な理解を図るとともに、その利用について意図的・計画的に指導することが必要である。

具体的には、以下のような指導が考えられる。

- ・ 必要ときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくる。
- ・ 国語科に限らず、各教科等の調べる学習の中でも積極的に辞書を利用する機会を設ける。

(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語 P27より)

● 目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くことには課題がある。

B問題

2

六年一組の高野さんの学級では、健康な生活のために「早ね早起き朝ごはん」運動に取り組んでいます。高野さんは、これまでの活動の結果を報告文にまとめ、学級のみんなに伝えることにしました。次は、高野さんが書いている【報告文の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

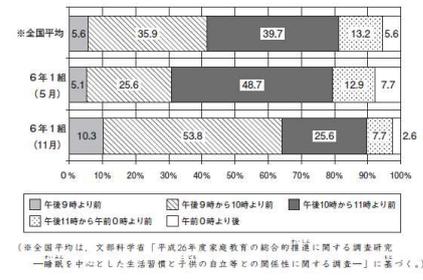
【報告文の一部】

○ 「早ね早起き」活動のまとめ

1 成果  
アンケート調査の結果、これまでの半年間の活動を成果を上げることが分りました。

（図1）のように、活動を始める前の五月の時点では、「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎて起きている人の割合が全国平均を上回り、早ねができていないはいえませんでした。それが半年間の活動後には、夜十時までにねる人の割合が（表1）から、「成長に大事なすいみんを十分にとるために、夜十時までにはねましよう」という保健室の先生のお話がみんなの心に残ったのだと考えます。他にも、毎日を動かすように、体育がない日にクラスで外遊びを行う活動や、「健康せんげんカード」に早ね早起きできたかを記録する活動を行ったこともあげられます。

（図1） 次の日に学校がある日は、ふだん何時ごろにねますか。



2 課題

成果があった一方、生活のリズムを保つという点で、今回の活動では改善できず、これから解決していきたい課題があることが分りました。

課題は（図2）から分るように、

この課題を解決するためには、テレビやゲームの時間、メールなどを減らす時間として「健康せんげんカード」の記録方法について考える必要があることが（表2）から分かります。

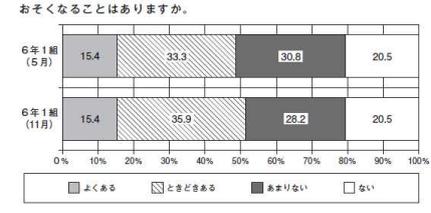
3 解決方法

そこで、わたしたちは多くの人を取り組める次のような解決方法を考えました。

- ・ 休みの日にも「健康せんげんカード」に記録をつけるようにする。
- ・ 今後は、これらの解決方法に取り組んでいきたいと思えます。

○ 「朝ごはん」活動について  
（報告文が続く）

（図2） 次の日に学校がない日は、学校がある日に比べて、ねる時刻が2時間以上おそくなることはありますか。



（表2） ねる時刻が2時間以上おそくなる理由は何ですか。（いくつ答えてもかまいません。）（6年1組 11月）

|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| 夜おそくまでテレビを見たり、ゲームをしたりしているから。  | 20人 |
| 夜おそくまで友達とメールなどをしているから。        | 14人 |
| 休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくてもいいから。 | 10人 |
| 家族のみんなも起きてるから。                | 4人  |
| その他                           | 7人  |

（表1） 早ねをするようになった理由は何ですか。（いくつ答えてもかまいません。）（6年1組 11月）

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| 保健室の先生のお話から、すいみんが成長に大事だと分かったから。 | 23人 |
| 毎日を動かしたら、早くねられるようになったから。        | 14人 |
| 「健康せんげんカード」に記録するから。             | 9人  |
| 早ねを毎日続けるようにしたら習慣になったから。         | 8人  |
| 早ねをしたら授業に集中できるようになったから。         | 5人  |
| その他                             | 11人 |

一 高野さんは、「1 成果」について（図1）を用いて書くようになっています。A の中に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 五月の結果を下回り、三十パーセント程度になりました
- 2 五月の結果より減り、四十パーセント以下になりました
- 3 五月の結果より増え、六十パーセントをこえました
- 4 五月の結果を上回り、十パーセント程度になりました

二 高野さんは、「2 課題」と「3 解決方法」について書くようになっています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高野さんは、「2 課題」について（図2）を用いて書くようになっています。B の中に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

- ○ （図2）の結果から考えて書くこと。
- ○ 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

(2) 高野さんは、「3 課題」を受け、多くの人が取り組めることを考えて「3 解決方法」を書くようになっています。C の中に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

- ○ （表2）の結果から考えて書くこと。
- ○ 「テレビやゲーム」と「メールなど」の両方の言葉を使って書くこと。
- ○ 二十五文字以上、五十文字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
※◆の印から書きましょう。どちらの行を変えないで、続けて書きましょう。

25字

50字

|   |    |  |       |      |
|---|----|--|-------|------|
|   | 2  |  | 正答率   | 無答率  |
| - | 宮崎 |  | 41.7% | 1.0% |
|   | 全国 |  | 43.4% | 1.2% |

- 【一】誤答例
  - ・ 1を回答。「夜十時までのねる人の割合」のみに着目している。



|   |     |    |       |      |   |     |       |       |
|---|-----|----|-------|------|---|-----|-------|-------|
|   | 2   |    | 正答率   | 無答率  |   | 正答率 | 無答率   |       |
| 二 | 宮崎  |    | 50.3% | 5.1% | 二 | 宮崎  | 64.1% | 5.9%  |
|   | (1) | 全国 | 51.4% | 6.7% |   | (2) | 全国    | 64.2% |

- 【二(1)】誤答例
  - ・ 次の日に学校がない日は、学校がある日に比べて、ねる時こくが二時間以上おそくなる人がいることです。



- 【二(2)】誤答例
  - ・ ねる時こくが二時間以上おそくなるのはテレビやゲーム、メールをしている人が多いからです。

### ■正答

|   |     |    |       |      |   |     |       |       |
|---|-----|----|-------|------|---|-----|-------|-------|
|   | 2   |    | 正答率   | 無答率  |   | 正答率 | 無答率   |       |
| 二 | 宮崎  |    | 50.3% | 5.1% | 二 | 宮崎  | 64.1% | 5.9%  |
|   | (1) | 全国 | 51.4% | 6.7% |   | (2) | 全国    | 64.2% |

### 学習指導に当たって

図表やグラフを基に分かったことを的確に書く

- 図表やグラフなどを読み、分かったことを的確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。そのためには、社会科や算数科などで学習した図表やグラフの読み方を生かし、読み取ったことを的確に表現することができるように指導していくことが大切である。また、本問のように、自分の考えを伝えるための根拠として、文章の中で図表やグラフなどを用いている場合は、文章と関係付けながら、図表やグラフなどを読む必要がある。

ここでは、本問における〈図1〉を読む際のポイントを次に示す。



#### 〈図1〉を読む際のポイント

- ① 〈図1〉は、何についてのグラフなのかを確認する。
- ② グラフの中にあるそれぞれの情報は何を表しているのかを確認する。
- ③ 半年間、活動に取り組んだ結果、夜十時までに寝る人の割合が増えたという成果を述べるためには、どの言葉や数字に着目するのがよいのかを確認する。

目的や意図に応じ、図表やグラフを用いて、自分の考えを書く

- 自分の考えを書く際には、示すべき事実が、図解されていたり、表形式やグラフ形式で示されていたりした方が、読み手に伝わりやすい場合がある。本問のように、活動報告文に自分の考えとして、活動に取り組んだ成果や課題などを書く場合は、活動の成果や、課題の根拠や理由となる図表やグラフなどを基にして自分の考えをまとめ、それらを用いながら書くことで、読み手への説得力が高まると考えられる。児童が「自分の伝えたいことと合う図表やグラフなどを活用することで、説得力が生まれること」を自覚できるように指導することが必要である。また、図表やグラフを用いて、自分の考えを書く際には、自分が選んだ図表やグラフは、伝えたいことに合っているかを考え、それから読み取ったことを分かりやすく書いて自分の考えが伝わるように書くことが大切である。

指導に当たっては、平成27年度【小学校】国語B2三に係る授業アイディア例も参考にする。

(参考)

#### ※関連する問題

| 問題番号   | 問題の概要                         | 正答率   | 解説資料        | 報告書         |
|--------|-------------------------------|-------|-------------|-------------|
| H27B2三 | 楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く | 41.8% | P. 44～P. 52 | P. 56～P. 64 |

(参照)「平成27年度【小学校】授業アイディア例」P. 6

(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語 P63・66より)

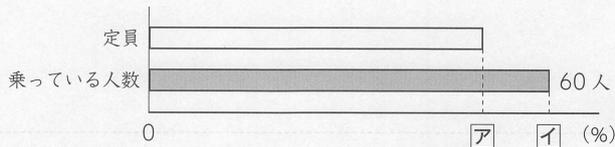
【小学校算数】

- 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる問題については課題がある。

A問題

(2) バスに乗っている人数は60人です。乗っている人数は、定員よりも定員の20%分多いそうです。

定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を、百分率を使った次の図に表します。



図の中の「ア」と「イ」には、下の4つの数のいずれかが入ります。「ア」と「イ」に入る数をそれぞれ書きましょう。

20      80      100      120

■ 正答

|   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|
| ア | 100 | イ | 120 |
|---|-----|---|-----|

|           |     |         |      |
|-----------|-----|---------|------|
| 9         | (2) | 正答率     | 無答率  |
| (1)       | 宮崎  | 42.1%   | 5.1% |
|           | 全国  | 50.9%   | 5.7% |
| ● 誤答例     |     |         |      |
| アを80イを100 |     | (15.2%) |      |
| アを20イを120 |     | (4.7%)  |      |
| アを80イを20  |     | (5.4%)  |      |



誤答について

アを80イを100と解答した、反応率が15.2%(全国13.2%)である。基準量を誤って捉えていると考えられる。

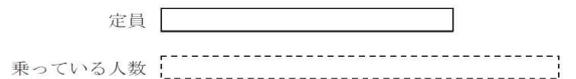
学習指導に当たって

基準量と比較量の関係を正しく捉えることができるようにする

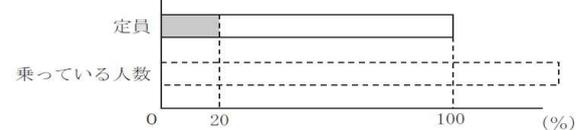
○ 日常生活においては、増量や値引きなど様々な場面で割合が用いられている。その意味を理解するためには、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることが大切である。特に、何が基準量に当たるのかを意識することは大切である。

指導に当たっては、基準量と比較量の関係を数直線などを用いて捉える場面を設けることが考えられる。その際、問題場面を数直線などに表現する手続きを覚えるのではなく、問題場面がどのようなことを表しているのかを理解し、そのイメージを数直線などを用いて表現することを大切にしていけることが必要である。例えば、右のように、問題場面を図に表す過程を丁寧に確認する場を設けることが考えられる。

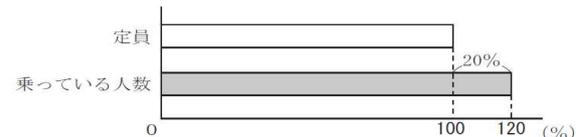
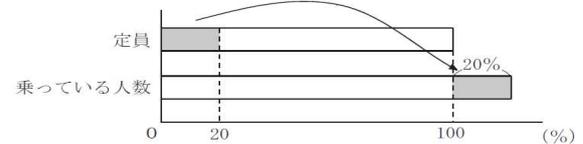
① 乗っている人数は定員よりも定員の20%分多い



② 乗っている人数は定員よりも定員の20%分多い



③ 乗っている人数は定員よりも定員の20%分多い



(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校算数 P62より)

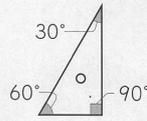
● 算数の問題場面で見いだしたことを、図形の構成要素に着目して、論理的に考察することができるかどうかをみる問題には課題がある。

B問題

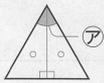
5

右のような、 $30^\circ$ 、 $60^\circ$ 、 $90^\circ$ の角をもつ三角定規があります。

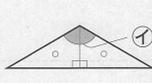
この三角定規を2枚使って、同じ長さの辺をあわせて、次の3種類の図形をつくりました。



① 正三角形



② 二等辺三角形



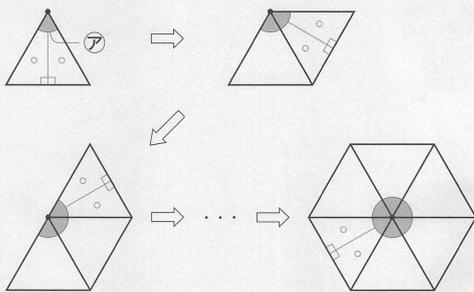
③ 四角形



これらの図形の中から1種類を選んで形をつくります。  
①、②、③のそれぞれの角が1つの点のまわりに集まるように、選んだ図形を並べていくと、どのような形ができますか。



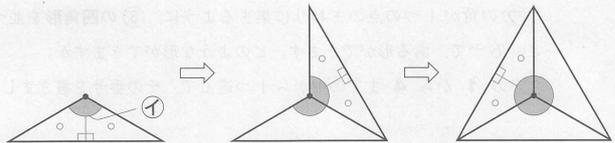
①の角が1つの点のまわりに集まるように、①の正三角形を並べていくと、6つで、正六角形ができました。



(1) 次に、下のように、②の二等辺三角形を選んで形をつくります。



①の角が1つの点のまわりに集まるように、②の二等辺三角形を並べていくと、3つで、正三角形ができました。



どうして3つでぴったりつくることができるのでしょうか。



$360 \div 120 = 3$ で、商が3になり、わり切れるからです。



そうですね。  
では、 $360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。説明してみましょう。

$360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。  
言葉と数を使って書きましょう。その際、「360」と「120」が何を表しているかがわかるようにして書きましょう。

■ 正答

(正答例)

- 360は、1回転した角の大きさを表しています。
- 120は、①の角の大きさを表しています。
- $360 \div 120$ は、 $360^\circ$ の角の中に、 $120^\circ$ の角がいくつ入るかを計算している式です。

|   |     |      |       |
|---|-----|------|-------|
| 5 | (1) | 正答率  | 無答率   |
|   | 宮崎  | 5.6% | 20.4% |
|   | 全国  | 6.9% | 18.7% |

● 誤答例  
360は、1回転した角の大きさです。120はイの角の大きさです。(21.6%)

学習指導に当たって

図形と式を関連付けて、式の意味を説明することができるようにする

○ 算数科の学習においては、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者にわかりやすく説明したりすることが大切である。

指導に当たっては、図形と式を関連付けて、式の意味を説明することができるようにすることが大切である。例えば、本設問の場面を基に、かなえさんの「 $360 \div 120 = 3$ 」の式と図のみを提示し、「図の中のどの角のことですか。」などと問いかけ、1回転の角の大きさと同じ大きさであることや、二等辺三角形の①の角の大きさであることを解釈し説明し合う場を設けることが考えられる。その際、360を120でわる理由について、図形と式を関連付けながら、 $360^\circ$ の中に二等辺三角形の①の角が何個入るかを求めるために除法を用いていることを明らかにしていくことが必要である。また、図形と式を関連付けて明らかになった式の意味について、児童同士で再度確認したり、ノートに記述して整理したりする活動を授業の中で適宜取り入れることも考えられる。

(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校算数 P95より)

誤答について  
360と120の角の大きさについては記述することができているが、被除数は除数のいくつ分かを計算している式であることはできていない。



【中学校国語】

○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む問題については良好な結果である。

A問題 9 二

二 次の1から3までの文中の——線部の漢字の正しい読みをひらがなで書いていねいに書きなさい。

1 封筒を開ける。

2 長年の努力が報われた。

3 目上の人を敬う。

■正答

- 1 ふうとう
- 2 むく
- 3 うやま

● 2 誤答例  
・「した(う)」「とうと(う)」



| 9 二 |    | 正答率   | 無答率  |
|-----|----|-------|------|
| 1   | 宮崎 | 97.2% | 0.9% |
|     | 全国 | 97.6% | 1.3% |
| 2   | 宮崎 | 95.7% | 1.4% |
|     | 全国 | 94.8% | 2.0% |
| 3   | 宮崎 | 87.7% | 2.3% |
|     | 全国 | 82.6% | 4.8% |

学習指導に当たって  
漢字を読むことの指導においては、それぞれの文脈の中でどのような意味で用いられているかを理解しながら読むように指導することが大切である。例えば、具体的な文脈の中で漢字の読み方と意味とを関連させて理解するなどの学習活動が有効である。  
(平成28年度 報告書より一部抜粋)

● 文字の形や大きさ、配列に注意して書くことには課題がある。

A問題 9 六

六 大川さんは、意見発表会の題名「△」を「□」のように書き直しました。どのように書き直したか。改善点の説明として適切なものを、あとの1から5までの中から2つ選びなさい。

□ みんなで目指す理想の学校

△ みんなで目指す理想の学校

1 全ての文字を同じ大きさにして書き直した。

2 別の文字と見間違えないように字形を整えて書き直した。

3 書体を統一することを考えて全ての文字を行書で書き直した。

4 行の中心に文字の中心を合わせて書き直した。

5 用紙の大きさと文字数の関係に注意して書き直した。

■正答

2、5

| 9 六 |    | 正答率   | 無答率  |
|-----|----|-------|------|
| 六   | 宮崎 | 32.9% | 0.9% |
|     | 全国 | 36.4% | 1.2% |

●誤答例  
「1、5」もしくは「1、2」と回答。  
紙面全体に対して漢字と仮名の大きさが調和的に割り当てられていることを適切に捉えられていない。  
(66.2%)



学習指導に当たって

字形を整え、文字の大きさ、配列などに注意して書く  
書写の学習では、書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設けることが考えられる。例えば、本設問のような特徴的な事例を示し、全体で視点を確認した後、個人やグループで書いたものを検討するなどの学習活動が有効である。また、社会生活の中で見られる文字の大きさや配列の工夫などについて適宜取り上げ、目的や必要に応じて効果的に書くことを意識させることが大切である。

(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 中学校国語 P59～60より)

● 課題を決め、それに応じた情報の収集方法について考えることができるかどうかをみる問題には課題がある。

B問題 2 三

### 宇宙エレベーターのイメージ

宇宙エレベーターのイメージ

宇宙ステーションから地上とは反対側に伸ばされたケーブル

高度約3万6000km

宇宙ステーション

昇降機

地上

地球

### もう夢物語ではない！ エレベーターで宇宙へ

地上と宇宙を結ぶ一本の長いひもに宇宙エレベーターを乗せ、地上と宇宙を行き来する。このケーブルに、モーターで動く昇降機を取り付けて人や物資を運ぶようにするのが宇宙エレベーターである。

建設すると、地球の回転と同じ約24時間で一周するため、地上からは静止しているように見える。この宇宙エレベーターが、地上へ向けてカーボンナノチューブを素材とするケーブルを伸ばしていくと、ケーブルは地球に落ちてきてしまう。そのため、宇宙ステーションから地上とは反対側へもケーブルを伸ばして、バランスを保つ必要がある。

新たな物質の発見  
宇宙エレベーターが空想世界だけの技術と考えられていたが、今や実現可能な技術として期待されている。

性が高まった。現在は、鉄の100倍の強度にするを目標として研究が進められている。

イラスト  
▲カーボンナノチューブの構造

誰でも宇宙へ  
現在、宇宙飛行士になるためには、健康面や科学的な知識、語学力などに関する様々な資質が求められる。しかし、宇宙エレベーターは安全性が確保されれば、地上のエレベーターと同じように乗ることができると考えられている。宇宙エレベーターを使えば、誰でも宇宙に行くことができるようになるかもしれない。

大量輸送もOK  
これまでは、宇宙へ行くための方法として、スペースシャトルや宇宙ステーションなどのロケットを利用してきた。しかし、これらのロケットには大量の燃料などを積み込むため、荷物も多く積むことができなかった。それに代って、電力で動く宇宙エレベーターを使えば、昇降機で大量の荷物やたくさんの人を宇宙に運ぶことが可能になる。

ロケットよりも安い費用  
ロケットは、打ち上げに多くの費用がかかる。これに加え、一度使った機体の再利用も課題となっている。一方、宇宙エレベーターは外から供給される電力で動かすことが想定されており、また、長い期間にわたって繰り返し使うことが可能なので、安い費用で宇宙に行くことができると考えられている。

写真  
▲スペースシャトル(左)とソユーズ(右)

写真  
▲宇宙から見た地球

■ 正答例

- ア 宇宙エレベーターは、なぜ長い期間にわたって繰り返し使うことが可能なのか。
- イ 図書の分類に従って、自然科学に関係する本が置いてある棚に行く。
- ウ 図書検索用のコンピュータに「宇宙エレベーター」と入力して検索する。

|   |    | 2 | 正答率   | 無答率  |
|---|----|---|-------|------|
| 三 | 宮崎 |   | 48.4% | 5.0% |
|   | 全国 |   | 49.2% | 6.0% |

● 誤答例

- ・ 宇宙についての本を探す。
- ・ 宇宙エレベーターについて書かれた本を探す。
- ※ 具体的な本の探し方を考えることができていない。(35.2%)

学習指導に当たって

自ら情報を収集しながら課題の解決を図る学習の際には、新聞や雑誌、コンピュータ情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などを活用する必要がある。その際、課題の解決までの見通しをもち、状況に応じて適切な情報収集の方法を選択するよう指導することが必要である。

学校図書館の利用に当たっては、小学校での学習内容を踏まえ、日本十進分類法や本の配置法を考えるように指導することが重要である。また、収集の方法や情報の適否について交流するなど、より主体的な学習を行うように指導することも重要である。

(平成28年度 報告書P74より一部抜粋)

三 高橋さんは、宇宙エレベーターについて疑問に思ったことを、学校図書館で調べることにしました。あなたなら、自分が疑問に思ったことを、学校図書館でどのように調べますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 【雑誌の記事】を読んで、宇宙エレベーターについてあなたが疑問に思ったことを、「なぜ」、「どのような」、「どのくらい」という言葉のいずれかを使って、二十字以上、四十字以内で一つ書きなさい。

イ アについて学校図書館で調べる場合、必要な本をどのように探しますか。本の探し方を二つ書きなさい。

【中学校数学】

● 自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題には課題がある。

A問題 1

(2) 下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

- ア -5
- イ 0
- ウ 1
- エ 2.5
- オ 4

■正答

(2) ウ、オ

|     | 1  | 正答率   | 無答率  |
|-----|----|-------|------|
| (2) | 宮崎 | 32.1% | 0.1% |
|     | 全国 | 40.6% | 0.2% |

●誤答例  
0と自然数で解答 (35.0%)  
「イ、ウ、オ」

【誤答への対応】

「自然数」をどう捉えさせているかが大切です。  
「0, 1, 2, 3, …」を自然数として理解している生徒が多く、  
また「小数ではない数」が自然数であると理解している生徒もいます。



学習指導に当たって

数の集合を捉え直し、自然数や整数の意味を理解できるようにする

(対応設問：設問(2))

自然数や整数の意味を理解できるようにするために、数の範囲を正の数と負の数に拡張し、数の集合を捉え直すことで、数についての理解を深める場面を設定することが考えられる。

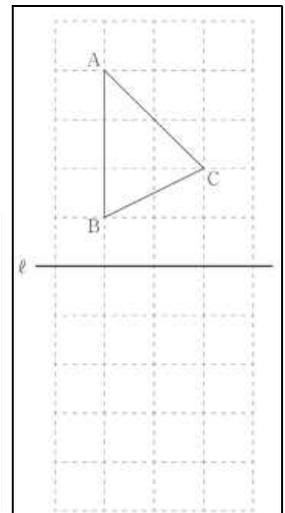
設問(2)を使って授業を行う際には、新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れることが考えられる。その際、0は整数に含まれるが、自然数には含まれないことを確認することが必要である。なお、このように数の集合を捉え直すことは、第3学年の有理数や無理数の学習においても大切である。

(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 中学校数学 P27より)

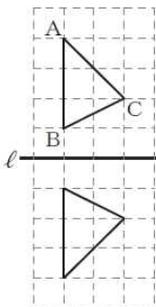
● 対称移動した図形をかくことができるかどうかをみる問題には課題がある。

A問題 4

(2) 下(右)の図の△ABCを、直線ℓを軸として対称移動した図形を、解答用紙の方眼を利用してかきなさい。

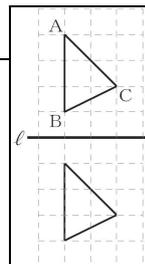


■正答



|     | 4  | 正答率   | 無答率  |
|-----|----|-------|------|
| (2) | 宮崎 | 66.1% | 1.4% |
|     | 全国 | 71.8% | 2.0% |

●誤答例 (20.9%)



【誤答への対応】

平行移動と混同している生徒が多くいます。  
移動前と移動後の図形の関係に着目させることが必要です。



## 学習指導に当たって

平面上にかかれた図形を、きまりにしたがって移動し、移動前と移動後の2つの図形の関係を捉えることができるようにする

移動前と移動後の2つの図形の関係を捉えることができるようにするために、ある図形がきまりにしたがって移動していることを視覚的に捉える場面を設定することが考えられる。

例えば、紙で作った図形を実際に移動させたり、コンピュータを利用して移動させたりするなどして、図形の平行移動、対称移動、回転移動を視覚的に捉える活動を取り入れることが考えられる。また、移動前と移動後の図形の関係を考察することで、対称移動では、対称の軸は対応する点を結ぶ線分の垂直二等分線になることなど、それぞれの移動の特徴を見いだすことができるようにすることも大切である。

また、移動前と移動後の図形をあらかじめ提示して、2つの図形の構成要素の対応関係を捉えながら、一方を他方に重ねるにはどのようにしたらよいかを考察し、説明する場面を設定することも考えられる。

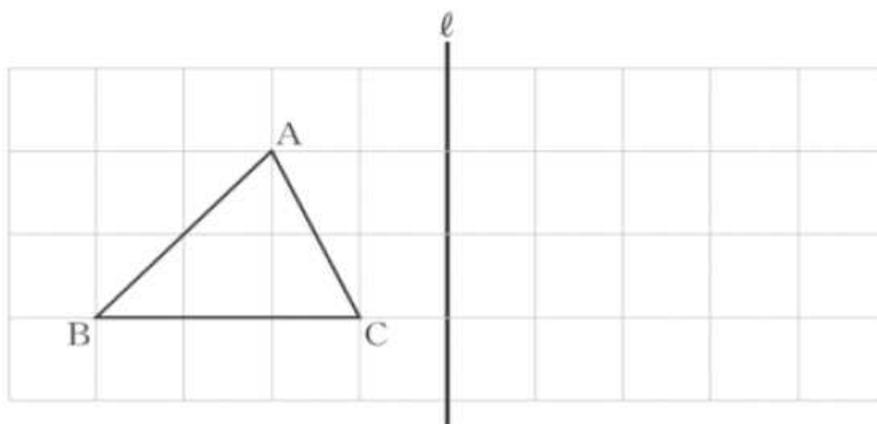
なお、平成24年度【中学校】数学A $\boxed{4}$ (2)の正答率が82.3%に対し、本設問が72.4%であることから、対称軸の位置や向きが変わった場合を考察する場面を設定することも考えられる。

### 【関連する問題】

- 平成24年A  $\boxed{4}$  (2)  $\triangle ABC$ を、直線 $l$ を軸として対称移動した図形をかく問題
- 平成24年の全国正答率・・・82.3%

## 平成24年度【中学校】数学A $\boxed{4}$ (2)

(2) 下の図の $\triangle ABC$ を、直線 $l$ を軸として対称移動した図形を、解答用紙の方眼を利用してかきなさい。



(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 中学校数学 P51より)

### 【平成24年と平成28年の比較】

全国 H24 : 82.3% → H28 : 72.4%

宮崎 H24 : 81.1% → H28 : 66.1%

※ 移動方向が変わるだけで、生徒は混同してしまうことがわかります。



● 前提となる条件が不足している場面で、

- ・ 与えられた条件を基に、数量の関係を的確に捉えること
- ・ 加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること

ができるかどうかをみる問題には課題がある。



B問題

2 桃香さんと拓真さんは、お互いに数学の問題を出し合いながら勉強しています。桃香さんは、次のような問題を作りました。

桃香さんが作った問題

$x$ の値に対応する $y$ の値は、次の表のようになります。このとき、 $x=4$ のときの $y$ の値を求めなさい。

|     |     |    |    |   |     |
|-----|-----|----|----|---|-----|
| $x$ | ... | 2  | 3  | 4 | ... |
| $y$ | ... | 18 | 12 |   | ... |

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 拓真さんは、桃香さんが作った問題について、 $y$ は $x$ の一次関数であると考えました。 $y$ が $x$ の一次関数であるとするとき、 $x=4$ のときの $y$ の値を求めなさい。

(2) 桃香さんと拓真さんは、桃香さんが作った問題について話し合っています。

拓真さん「僕は、一次関数と考えてこの問題を解いたよ。」  
 桃香さん「私は、一次関数とは別の関数で考えて、 $x=4$ のとき $y=9$ になるようにするつもりだったんだよ。」  
 拓真さん「それなら、問題の最初に $x$ と $y$ の間の関係を書き加える必要があるね。」

桃香さんが作った問題の最初に、 $x$ と $y$ の間の関係を書き加えます。 $x=4$ のとき $y=9$ になるように、 $x$ と $y$ の間の関係を書き加えることについて、正しいものを下のア、イの中から1つ選び、それが正しいことの理由を説明しなさい。

ア 「 $y$ は $x$ に比例しています。」を書き加えれば、 $x=4$ のとき $y=9$ になる。

イ 「 $y$ は $x$ に反比例しています。」を書き加えれば、 $x=4$ のとき $y=9$ になる。

■ 正答

(1) 6

|     | 2  | 正答率   | 無答率  |
|-----|----|-------|------|
| (1) | 宮崎 | 53.3% | 8.2% |
|     | 全国 | 59.1% | 8.7% |

●誤答例  
9と解答 (16.3%)

|     | 2  | 正答率   | 無答率  |
|-----|----|-------|------|
| (2) | 宮崎 | 19.7% | 7.2% |
|     | 全国 | 20.6% | 8.2% |

●誤答例  
アを選択した解答 (21.2%)

何が必要な条件なのか、判断できることが大切です。



■ 正答(2) イを選択した後、例として下記の記述となる。

【例1】

反比例であれば  $y = \frac{a}{x}$  と表される。表の  $x=2$ ,  $y=18$  より、 $a=36$  になるから、 $y = \frac{36}{x}$  と表される。この式に  $x=4$  を代入すれば、 $y=9$  になる。

【例2】

したがって、「 $y$ は $x$ に反比例しています。」を書き加えれば、 $x=4$ のとき反比例であれば、 $x$ と $y$ の積が一定である。表の  $x=2$ ,  $y=18$  より、積は36になる。このとき、 $x=4$ に対応する $y$ の値は9になる。したがって、「 $y$ は $x$ に反比例しています。」を書き加えれば、 $x=4$ のとき $y=9$ になる。

【例3】

反比例であれば、 $x$ の値が2倍、3倍、... になると、 $y$ の値は $\frac{1}{2}$ 倍、 $\frac{1}{3}$ 倍、... になる。  
 $x$ の値が2から4へ2倍になると、 $y$ の値は18の $\frac{1}{2}$ 倍で9になる。  
 したがって、「 $y$ は $x$ に反比例しています。」を書き加えれば、 $x=4$ のとき $y=9$ になる。

学習指導に当たって

関数関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、対応する値を求めることができるようにする (対応設問：設問(1))

$x$ の値に対応する $y$ の値を求めることができるようにするために、表から変化や対応の特徴を捉え、対応する値を求める活動を取り入れることが考えられる。

前提として必要な条件を判断し、それが適している理由を説明できるようにする (対応設問：設問(2))

条件を付加する必要があるとき、付加する条件を判断し、それが適している理由を説明できるようにするために、条件が不足した問題について考察する場面を設定することが考えられる。

(平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書 中学校数学 P111より)

## 宮崎県の調査結果

## ◆ 児童生徒質問紙における「生活習慣」に関する主な項目の全国との比較

児童生徒質問紙における「生活習慣」に関する項目について、本県と全国の状況を比較し、肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」）をした児童生徒の割合が、全国平均を上回る主な質問を示しています。

| 内 容  | 小学校  |      |      | 中学校  |      |     |
|--|------|------|------|------|------|-----|
|  | 宮崎   | 全国   | 差    | 宮崎   | 全国   | 差   |
| 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか                          | 92.1 | 90.8 | 1.3  | 93.4 | 92.3 | 1.1 |
| 朝食を毎日食べていますか                                 | 95.6 | 95.5 | 0.1  | 95.0 | 93.3 | 1.7 |
| 将来の夢や目標を持っていますか                              | 89.1 | 85.3 | 3.8  | 76.2 | 71.1 | 5.1 |
| 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか（1時間以下・しない） | 53.7 | 45.1 | 8.6  | 50.9 | 42.9 | 8.0 |
| 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）         | 74.7 | 62.5 | 12.2 | 76.4 | 67.9 | 8.5 |
| 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか               | 81.1 | 79.2 | 1.9  | 78.4 | 74.1 | 4.3 |
| 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか                        | 67.7 | 62.2 | 5.5  | 50.5 | 48.4 | 2.1 |
| 今住んでいる地域の行事に参加していますか                         | 72.5 | 67.9 | 4.6  | 46.7 | 45.2 | 1.5 |
| 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか                  | 77.5 | 70.6 | 6.9  | 75.5 | 65.8 | 9.7 |
| 学校のきまりを守っていますか                               | 93.2 | 91.5 | 1.7  | 95.4 | 94.7 | 0.7 |

## ◆ 児童質問紙の結果概要（全国平均との比較）

生活習慣については、ほぼすべての項目で全国平均を上回っており、毎日、同じくらいの時間に起きたり、学校のきまりを守ったりするなど、望ましい生活習慣を身に付けている割合が高い状況にある。家庭での学習時間についても、普段（月～金）、1日あたり1時間以上の学習をしている子どもの割合は、全国平均と比べると非常に高い状況にある。

さらに、地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があったり、将来の夢や目標を持っていたりする児童・生徒の割合も全国平均と比べると高い状況にある。